

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 63～71 節 ＞

### 1 ただ一人主イエスを追ったペトロをどう評価する？

他の弟子たちが皆「イエスを見捨てて逃げてしまった」（マタイ 26:56, マルコ 14:50）中で、主イエスの後を追い続けたペトロ。そのことを思うと、この後の醜態にもかかわらず、むしろ評価すべきではないかと思ったりします。どう考えればいいのでしょうか？

### 2 「試みにあわせず、悪より救い出したまえ」の意味。

主の祈りの中の一節ですが、ここで「試み」とは災いや苦しみではなく、そのような中で神様への信頼を失ったり神様を拒否したりすることを指しています。ペトロが試されたのはまさにそれであり、怖れに負けて主を三度も拒否し、試みに負けたことが問題なのです。宗教改革者カルヴァンは、逃げた弟子たちが一概に悪いとは言い切れず、逃げないならこの試みへの心構えをしておく必要があったと指摘しています。主もまた気を付けるように示唆して下さっていたのですから（33-34 節）。自分の力や勇気に奢りは禁物です。

### 3 「主は振り向いてペトロを見つめられた」が持つ意味。

しかしペトロの罪は聖霊を冒瀆したユダの罪とは違うとカルヴァンは言います。ペトロは主イエスを信頼しつつ、怖れによって主を否定してしまった罪であり、神様が送られた主イエスを知りつつ真っ向から否定する罪とは違うからです。それ故に、「主は振り向いてペトロを見つめられ」、それによってペトロは自分が犯した罪深さに気づき、この後どん底の状態を過ごした後に、主の復活によってどんな罪をも赦して下さる神様の憐れみ深さを理解し、その神様と共に新たに生きる者となったのです！ ここで大事なことは、イエス様がペトロの方に振り向いて下さったこと、それがペトロに自分の罪を気づかせたことです。ペトロが自分のしたことの愚かさに気づいたという、人間の心の中の変化を追うだけではまだ聖書を読んだことにはなりません。自分だけを見ていては救いようのない私たちを、この世界と私たちを造られた神様が見捨てず、救い出して下さったのです！ イエス様を追う時にこの神様の存在（私たちに生きて働いて下さる神様がおられるということ！）を知ることができるのです。これまでのペトロとこの後のペトロの違い、その出所を見つめることが大事なのです。